**聖霊降臨節第8主日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2024年7月7日**

**「わたしたち」**

**詩編145編17～21節**

**145:17 主の道はことごとく正しく／御業は慈しみを示しています。**

**145:18 主を呼ぶ人すべてに近くいまし／まことをもって呼ぶ人すべてに近くいまし**

**145:19 主を畏れる人々の望みをかなえ／叫びを聞いて救ってくださいます。**

**145:20 主を愛する人は主に守られ／主に逆らう者はことごとく滅ぼされます。**

**145:21 わたしの口は主を賛美します。すべて肉なるものは／世々限りなく聖なる御名をたたえます。**

**使徒言行録16章6～10節**

**16:6 さて、彼らはアジア州で御言葉を語ることを聖霊から禁じられたので、フリギア・ガラテヤ地方を通って行った。**

**16:7 ミシア地方の近くまで行き、ビティニア州に入ろうとしたが、イエスの霊がそれを許さなかった。**

**16:8 それで、ミシア地方を通ってトロアスに下った。**

**16:9 その夜、パウロは幻を見た。その中で一人のマケドニア人が立って、「マケドニア州に渡って来て、わたしたちを助けてください」と言ってパウロに願った。**

**16:10 パウロがこの幻を見たとき、わたしたちはすぐにマケドニアへ向けて出発することにした。マケドニア人に福音を告げ知らせるために、神がわたしたちを召されているのだと、確信するに至ったからである。**



**「パウロがこの幻を見たとき、わたしたちはすぐにマケドニアへ向けて出発することにした。マケドニア人に福音を告げ知らせるために、神がわたしたちを召されているのだと、確信するに至ったからである。」今日の聖書箇所の最後の10節はこのように記されています。ここに「わたしたち」という表現が2回繰り返されています。使徒言行録は今まで「パウロたちは」とか、「彼らは」という表現がなされていましたが、ここから「わたしたち」という一人称複数形になります。もちろん全てが「わたしたち」になるわけではありませんが、「わたしたち」が多くなるのです。「彼らは」という客観的な視点から、「わたしたち」という主観的な視点に、何か今この時代に生きている「わたしたち」も聖書の「わたしたち」と一緒に伝道旅行をしているような気持になります。実際そうなのです。「わたしたち」もパウロたちと一緒に伝道の旅をしているのです。「わたしたちも」も神様から福音を告げ知らせるために神様から召されている、この地に福音を告げ知らせるために、イエス様の十字架と復活の福音を告げ知らせるために。**

**10節から「わたしたち」と表現が変わるのは、使徒言行録を書いた医者のルカがパウロたちと港町のトロアスで出会い、ここからパウロたちの伝道旅行に同行するようになったので「わたしたち」になっていると考えられています。テモテに加えてルカも仲間に加わった、パウロの伝道旅行はますます順調で力強いものとなったかというと決して順調ではなかったことが6節からを読むとよくわかるのです。**

**「さて、彼らはアジア州で御言葉を語ることを聖霊から禁じられたので、フリギア・ガラテヤ地方を通って行った。**

**ミシア地方の近くまで行き、ビティニア州に入ろうとしたが、イエスの霊がそれを許さなかった。**

**それで、ミシア地方を通ってトロアスに下った。」（6～8節）**

**伝道者パウロです。神様の御言葉を、福音を宣べ伝えるために神様から召されて、聖霊によって送り出されて第二次伝道旅行に出発しました。第二次伝道旅行は15：36に記されてありますように、小アジアと呼ばれる地域の第一次伝道旅行で福音を宣べ伝えて教会が誕生したそれぞれの町をもう一度訪ねて問安することが目的でした。シリア州のアンティオキアから陸路でデルべに行き、リストラに行きました。そこでギリシア人を父に持ちユダヤ人を母に持つテモテと再会して彼を伝道旅行に連れて行きました。パウロ、シラス、テモテと3人は「さあこれから」とばかりに意気揚々と伝道旅行の道を進めたことでしょう。**

**ところが、です。御言葉を語るために召された伝道者パウロたちがアジア州で御言葉を語ることを禁じられたのです。「禁じる」は「阻止する」とか「させないようにする」という意味を持つ言葉です。パウロたちをここまで導いて下さった聖霊が何としてでもパウロたちがアジア州で御言葉を語ることを阻止したというのです。それが具体的にどのようなものなのかはわかりませんが、パウロたちは「これは聖霊の導きで語れなくされている」と認識できるものだったのでしょう。**

**パウロたちがどうしたかというと、アジア州がダメなら他の地域で御言葉を語るのでした。フリギア・ガラテヤ地方で語るのです。その結果、この地域にも教会が誕生したのです。パウロたちはさらにミシア地方の近くまで行き、北へと舵を取りビティニア州に入ろうとしました。すると、今度はイエス様の霊がそれを許さなかったのです。聖霊に続きイエス様の霊までもがパウロたちの伝道旅行を阻止するのです。パウロたちの伝道計画はまたしても変更を余儀なくされました。ガラテヤとかビティニアとか地名だけだとイマイチピンとこないですが、距離にして数百キロメートル、しかもこの辺りは山間地ですから、伝道したいと思っても聖霊とイエス様の霊によって阻止されるこのフラフラとした旅が肉体的にも精神的にも相当きついものであることは私たちも想像できると思います。**

**私たちもこの道こそが神様の御心だと信じてその道を進もうとするのに上手くいかなくて軌道修正を余儀なくされることがあります。そして、さらに今度こそ本当に御心だと思ってその道を進もうとしても、また道が閉ざされることもあります。絶望のどん底に突き落とされて「神様なぜですか。あなたの御心はどこにあるのですか」私たちはそのように祈らざるを得ません。**

**伝道者パウロは伝道するために遣わされたのに、その伝道を阻止されるのですから、自分の存在そのものを否定されたような暗澹たる思いで一杯だったのではないかと思います。「主よ、なぜですか」恐らく何度も何度も祈り御心を問うたことでしょう。アジア大陸の西の果ての港町トロアスに下るその足取りはとてつもなく重いものであったと思うのです。そして、港町トロアスでも主の御心を求めて熱心に祈ったと言いますか、祈らざるを得なかったでしょう。**

**「暗澹冥濛（あんたんめいもう）」という四字熟語があることを知りました。日常的に使うことはめったにないと思います。この意味は「暗くてはっきりせず、先が見えない様。前途に希望のないことのたとえ」だそうです。トロアスの港に下った時のパウロがまさに「暗澹冥濛」の状態にありました。御言葉を伝えたいのに、聖霊に阻止されてイエス様の霊にまで禁じられる。真っ暗などん底の中で祈るのです。**

**詩編130編の詩人は主にこのように祈ります（詩130：1～2）**

**「深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。**

**主よ、この声を聞き取ってください。嘆き祈るわたしの声に耳を傾けてください。」**

**パウロは今まさに真っ暗な深い淵の底から主に祈るのです。「主よなぜですか、なぜあなたはわたしの道を閉ざされるのですか。あなたに従って歩んでいるのになぜ御言葉を伝えることを禁じられるのですか」パウロは主の御心を求めて祈りに祈ったのではないかと思うのです。**

**そこに暗闇に一筋の光が差し込むのです。それがマケドニア人の幻です。「マケドニア州に渡って来て、わたしたちを助けて下さい」このマケドニア人が誰であるのか該当する人がいません。幻ですから夢かあるいは天使かもしれません。私はこのマケドニア人はイエス様だと思うのです。パウロはこのマケドニア人の幻を見てすぐにこれが主の召しであることを確信しました。真っ暗な闇の中でイエス様が祈りに応えて導いて下さった。イエス様が呼んで下さった。道を閉ざされるのもイエス様であり、新たな道を開いて下さるのもイエス様であると、主へ信頼しているからこそ確信したのではないかと思います。**

**パウロは確信するのです。そしてパウロだけではありません。「わたしたち」は確信するのです。ここでパウロは医者のルカに出会うのです。イエス様はパウロに大きな出会いを与えて下さったのです。「わたしたち」がここから始まるのです。**

**パウロたち、わたしたちはこれは主の召しであると確信して、エーゲ海を渡ってマケドニア地方にすぐに出発することにしたのです。マケドニア、それは今のギリシアです。ヨーロッパ大陸の東の果てです。パウロたち、わたしたちは全く思いもかけない導きでアジアからヨーロッパに渡ったのです。イエス・キリストの十字架と復活の福音を携えて、マケドニアの人たちにさらにヨーロッパの人たちに福音を告げ知らせるために。**

**「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」（使徒1：8）**

**イエス様はパウロたち、私たちを導いて下さり、大きな約束を実現して下さるのです。アジアからヨーロッパへ、さらに地の果てに福音が広がっていく、そのために私たちを豊かに用いて下さるのです。**

**「145:17 主の道はことごとく正しく／御業は慈しみを示しています。**

**145:18 主を呼ぶ人すべてに近くいまし／まことをもって呼ぶ人すべてに近くいまし**

**145:19 主を畏れる人々の望みをかなえ／叫びを聞いて救ってくださいます。**

**145:20 主を愛する人は主に守られ／主に逆らう者はことごとく滅ぼされます。**

**145:21 わたしの口は主を賛美します。すべて肉なるものは／世々限りなく聖なる御名をたたえます。」**

**本日与えられました旧約聖書の箇所です。私たちは主の道を歩むのです。たとえその道が閉ざされても、暗闇の中を歩んでも、主は慈しみを示して下さるのです。主は私たちと共に歩んで下さり、私たちの思いをはるかに超えた導きがあるのです。私たちは主の愛に感謝をして讃美をして共に歩んでいきましょう。**